

## 非結球あぶらな科葉菜類

農薬取締法上、「なばな類」は「非結球あぶらな科葉菜類」に含まれる。ただし、「かぶ」、「だいこん」等は葉を食用にする場合でも「非結球あぶらな科葉菜類」には含まれず、「根菜類」に含まれる。「ブロッコリー」「カリフラワー」等は「非結球あぶらな科葉菜類」には含まれず、「はなやさい類」に含まれる。

この項目では「非結球あぶらな科葉菜類」の作物群に対する登録内容のみを記載している。個別作物に対する登録内容については当該作物のページを参照すること。

## 白さび病

### 防除方法

- 1 収穫後の作物残さは適切に処分する。
- 2 あぶらな科野菜の連作を避ける。
- 3 ほ場の排水をよくする。
- 4 密植を避け、通風をよくする。
- 5 被害株は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。
- 6 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
  - ・ [ランマンフロアブル](#) 2 1  
 【非結球あぶらな科葉菜類（除なばな類） 2000倍 3日／3回】
  - ・ [ライメイフロアブル](#) 2 1 【2000～4000倍 3日／3回】
  - ・ [アミスター20フロアブル](#) 1 1  
 【非結球あぶらな科葉菜類（除こまつな、チンゲンサイ、タアサイ、みずな）  
2000倍 7日／2回】
  - ・ [ピシロックフロアブル](#) U 1 7 【1000倍 前日／3回】

## 炭疽病（たんそびょう）

### 留意事項

- 1 降雨が多く、気温が高い時期に発生が多い。
- 2 進展がきわめて速いため、発生初期の抜き取りが重要である。

### 防除方法

- 1 わら、またはポリフィルムなどでマルチングする。
- 2 被害株は速やかにほ場外へ持ち出し適切に処分する。
- 3 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
  - ・ [スクレアフロアブル](#) 1 1 【2000倍 前日／3回】
  - ・ [ベンレート水和剤](#) 1  
 【非結球あぶらな科葉菜類（除チンゲンサイ、みずな） 4000倍 21日／1回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

注3：QoI剤（1 1）は、耐性菌が生じやすいので、1作1回程度の使用に努める。

## 白斑病

### 留意事項

- 1 気温が低く、湿潤な条件が続く時期に発生しやすい。

### 防除方法

- 1 排水を良好にする。
- 2 密植を避け、通風をよくする。
- 3 発病株は早めに除去し、ほ場外に持ち出し適切に処分する。
- 4 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

- ・ [ベンレート水和剤](#) 1

【非結球あぶらな科葉菜類（除チンゲンサイ、みずな） 4000倍 21日／1回】

## 根こぶ病

### 留意事項

- 1 酸性土壌で排水不良のほ場に発生が多い。
- 2 ネビジン粉剤の成分フルスルファミドの総使用回数は1回。
- 3 オラクル顆粒水和剤の成分アミスルブロムの総使用回数は、6回以内（但し、土壌混和は2回以内、かん注は1回以内、散布は3回以内）。

### 防除方法

- 1 あぶらな科野菜の連作を避ける。
- 2 排水を良好にする。
- 3 石灰質資材を施用し、土壌酸度を矯正する。
- 4 下記の薬剤で土壌消毒を行う。（XⅢ土壌消毒 参照）

- ・ [バスアミド微粒剤](#)、[ガスタード微粒剤](#) 劇 一

【非結球あぶらな科葉菜類（非結球メキャベツ、こまつな、非結球はくさい、なばな類、チンゲンサイ、みずなを除く） 30kg／10a

所定量を均一に散布して土壌と混和する は種14日前／1回】

- 5 は種前または定植前に下記の薬剤を施用する。

- ・ [ネビジン粉剤](#) 3 6

【非結球あぶらな科葉菜類（除なばな類） 20～30kg／10a 全面土壌混和  
は種または定植前／1回】 または

【非結球あぶらな科葉菜類（除なばな類） 20kg／10a 作条土壌混和  
は種または定植前／1回】

- ・ [オラクル顆粒水和剤](#) 2 1

【200～300g／10a 全面散布後土壌混和 は種前または定植前／2回】

【200～500倍 セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊(30×60cm、使用土壌約3～4L) 当り500mL かん注 定植前／1回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

注3：QoI剤(11)は、耐性菌が生じやすいので、1作1回程度の使用に努める。

・ [フロンサイド粉剤](#) **29**

【非結球あぶらな科葉菜類(除ケール、こまつな、みずな、のざわな、なばな類)  
30~40kg/10a 全面土壌混和 は種または定植前/1回】

6 発病株は早めに除去し、ほ場外に持ち出し適切に処分する。

**アオムシ**

## 留意事項

- 1 幼虫による被害は春と秋に多い。
- 2 若齢幼虫の防除に重点を置く。
- 3 BT剤は8月後半~9月前半に使用すると効果が高い。

## 防除方法

- 1 ベたがけ資材の利用により被害軽減に努める。
- 2 発生を認めたら下記の薬剤を施用する。

・ [マッチ乳剤](#) **15** 【2000倍 3日/3回】

・ [アフーム乳剤](#) **6**

【非結球あぶらな科葉菜類(除なばな類、のざわな、チンゲンサイ、こまつな)  
1000~2000倍 7日/3回】

・ [アディオン乳剤](#) **3A**

【非結球あぶらな科葉菜類(除こまつな、非結球はくさい、みずな、なばな類)  
2000倍 前日/3回】

・ [ベリマークSC](#) **28** 【4000倍 株元かん注 7日/1回】

・ [BT剤](#) **11A** (IX野菜類の病虫害防除 3野菜類 参照)

**アブラムシ類**

## 留意事項

- 1 ウイルス病を媒介する。
- 2 少雨のときに多発しやすい。
- 3 スタークル粒剤、アルバリン粒剤の成分ジノテフランの総使用回数は3回以内(但し、は種時の土壌混和は1回以内、散布は2回以内)。

## 防除方法

- 1 ベたがけ資材の利用により被害軽減に努める。
- 2 は種時に下記の薬剤を施用する。

・ [モスピラン粒剤](#) **4A**

【非結球あぶらな科葉菜類(除チンゲンサイ) 3kg/10a まき溝土壌混和  
は種時/1回】

注1: 同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2: 異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

注3: QoI剤([11](#))は、耐性菌が生じやすいので、1作1回程度の使用に努める。

- ・ [スタークル粒剤](#)、[アルバリン粒剤](#) 4 A  
【非結球あぶらな科葉菜類（除チンゲンサイ） 6kg/10a まき溝土壌混和  
は種時/1回】
- 3 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
  - ・ [ウララDF](#) 2 9 【4000倍 前日/2回】
  - ・ [トランスフォームフロアブル](#) 4 C 【2000倍 前日/3回】
  - ・ [ベリマークSC](#) 2 8 【4000倍 株元かん注 7日/1回】
  - ・ [オルトラン水和剤](#) 1 B  
【非結球あぶらな科葉菜類（除ケール、からしな、ルッコラ、四川搾菜（茎葉）、  
畑わさび、畑わさび（葉）） 1500倍 21日/1回】

## カブラハバチ

### 防除方法

- 1 密植を避け、通風をよくする。
- 2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
  - ・ [モスピラン顆粒水溶剤](#) 劇 4 A  
【非結球あぶらな科葉菜類（除チンゲンサイ） 4000倍 7日/1回】

## キスジノミハムシ

### 留意事項

- 1 高温乾燥が続くと発生が多くなる。
- 2 スタークル顆粒水溶剤、アルバリン顆粒水溶剤の成分ジノテフランの総使用回数は3回以内（但し、は種時の土壌混和は1回以内、散布は2回以内）。

### 防除方法

- 1 シルバーマルチを利用する。
- 2 は種前～は種時に下記の薬剤を施用する。
  - ・ [フォース粒剤](#) 劇 3 A 【4kg/10a 全面土壌混和 は種前/1回】
  - ・ [ダイアジノン粒剤5](#) 1 B  
【非結球あぶらな科葉菜類（除こまつな、みずな、ケール、ひろしまな）  
6kg/10a 全面土壌混和 は種時/1回】
- 3 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
  - ・ [アクセルフロアブル](#) 2 2 B 【1000倍 前日/3回】
  - ・ [アニキ乳剤](#) 6 【1000～2000倍 前日/3回】
  - ・ [スタークル顆粒水溶剤](#)、[アルバリン顆粒水溶剤](#) 4 A  
【非結球あぶらな科葉菜類（除チンゲンサイ、畑わさび） 2000倍 3日/2回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

注3：QoI剤（1 1）は、耐性菌が生じやすいので、1作1回程度の使用に努める。

## ケラ

### 防除方法

1 は種時に下記の薬剤を使用する。

・ [ダイアジノン粒剤](#) **1 B**

【非結球あぶらな科葉菜類（除こまつな、みずな、ケール、ひろしまな）  
6kg/10a 全面土壌混和 は種時/1回】

## コナガ

### 留意事項

1 葉裏に網のような繭をつくって蛹になる。

2 春～初夏、秋の発生が多い。

3 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

4 BT剤は8月後半～9月前半に使用すると効果が高い。

### 防除方法

1 ベたがけ資材の利用により被害軽減に努める。

2 は種時に下記の薬剤を使用する。

・ [モスピラン粒剤](#) **4 A**

【非結球あぶらな科葉菜類（除チンゲンサイ） 3kg/10a まき溝土壌混和  
は種時/1回】

3 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

・ [アクセルフロアブル](#) **2 2 B** 【1000倍 前日/3回】

・ [マッチ乳剤](#) **1 5** 【2000倍 3日/3回】

・ [プレオフロアブル](#) **UN**

【非結球あぶらな科葉菜類（除こまつな、みずな、なばな類） 1000倍 7日/2回】

・ [ディアナSC](#) **5**

【非結球あぶらな科葉菜類（除こまつな、チンゲンサイ、なばな類）  
2500～5000倍 前日/2回】

・ [ヨーバルフロアブル](#) **2 8** 【5000倍 前日/2回】

・ **BT剤** **1 1 A**（IX野菜類の病害虫防除 3野菜類 参照）

## ナメクジ類

### 留意事項

1 被害の周りには移動した痕跡として粘液が付着する。

2 スラゴは株元に散布し、植物体上にかからないように注意する。

3 ナメククリーン3は、ほ場全体に処理を行う場合、生長点付近に薬剤が入り込まないように2葉展開期までに散布を終えるようにする。また、収穫3日前までに使用する

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

注3：QoI剤 (**1 1**) は、耐性菌が生じやすいので、1作1回程度の使用に努める。

## —非結球あぶらな科葉菜類—

場合は、外周部からの侵入を防ぐことを目的に最前列の株元に散布する。その際は、茎葉の隙間に薬剤が入らないよう注意する。

## 防除方法

- 1 収穫後の作物残さは適切に処分する。
- 2 密植を避け、通風をよくする。
- 3 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

・スラゴ —

【ナメクジ類、カタツムリ類、アフリカマイマイ、ヒメリンゴマイマイが加害する農作物等  
ナメクジ類、カタツムリ類、アフリカマイマイ及びヒメリンゴマイマイの発生あるいは加害  
を受けた場所または株元に配置 1~5g/m<sup>2</sup> 発生時/—】

・ナメクリーン3 — 【1~3kg/10a 株元散布 3日/2回】

## ネキリムシ類

## 留意事項

- 1 根の株元をかみ切り、株はそこから折れて枯死する。

## 防除方法

- 1 ほ場の中および周辺の除草を徹底する。
- 2 は種前~定植時に下記の薬剤を施用する。

・フォース粒剤 劇 3 A 【非結球あぶらな科葉菜類（除からしな）4kg/10a 全面土壌  
混和 は種前/1回】・ダイアジノン粒剤5 1 B

【非結球あぶらな科葉菜類（除こまつな、みずな、ケール、ひろしまな）  
6kg/10a 全面土壌混和 は種時または定植時/1回】

## ハイマダラノメイガ

## 留意事項

- 1 夏期が高温少雨で、残暑のきびしい年に多発しやすい。

## 防除方法

- 1 ベたがけ資材の利用により被害軽減に努める。
- 2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

・スピノエース顆粒水和剤 5

【非結球あぶらな科葉菜類（除みずな、非結球はくさい） 2500~5000倍  
14日/2回】

・アフーム乳剤 6

【非結球あぶらな科葉菜類（除なばな類、のざわな、チンゲンサイ、こまつな）  
1000~2000倍 7日/3回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

注3：QoI剤 (11) は、耐性菌が生じやすいので、1作1回程度の使用に努める。



## ハモグリバエ類

### 防除方法

- 1 ベたがけ資材の利用により被害軽減に努める。
- 2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
  - ・ [アニキ乳剤](#) 6 【1000～2000倍 前日／3回】
  - ・ [スピノエース顆粒水和剤](#) 5  
 【非結球あぶらな科葉菜類（除みずな、非結球はくさい） 2500～5000倍  
14日／2回】
  - ・ [カスケード乳剤](#) 15  
 【マメハモグリバエ 非結球あぶらな科葉菜類（除なばな類） 2000倍 7日／2回】

## ヨトウムシ類

### 留意事項

- 1 夏～秋期に高温乾燥する年に大発生する傾向がある。
- 2 若齢幼虫の防除に重点を置く。
- 3 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
- 4 BT剤は8月後半～9月前半に使用すると効果が高い。

### 防除方法

- 1 ベたがけ資材の利用により被害軽減に努める。
- 2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
  - ・ [アフーム乳剤](#) 6  
 【ヨトウムシ・ハスモンヨトウ 非結球あぶらな科葉菜類（除なばな類、のざわな、チンゲンサイ、こまつな） 1000～2000倍 7日／3回】
  - ・ [ディアナSC](#) 5  
 【ハスモンヨトウ 非結球あぶらな科葉菜類（除こまつな、チンゲンサイ、なばな類）  
2500～5000倍 前日／2回】
  - ・ [プレオフロアブル](#) UN  
 【ハスモンヨトウ 非結球あぶらな科葉菜類（除こまつな、みずな、なばな類）  
1000倍 7日／2回】
  - ・ [アクセルフロアブル](#) 22B 【ハスモンヨトウ 2000倍 前日／3回】
  - ・ [スカウトフロアブル](#) 3A  
 【ヨトウムシ 非結球あぶらな科葉菜類（除チンゲンサイ） 2000倍 7日／2回】
  - ・ [BT剤](#) 11A（Ⅸ野菜類の病害虫防除 3野菜類 参照）

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

注3：QoI剤（11）は、耐性菌が生じやすいので、1作1回程度の使用に努める。